

第三者意見



古谷 由紀子 氏
博士(総合政策)、
サステナビリティ消費者会議代表

プロフィール

- 博士(総合政策)、サステナビリティ消費者会議代表、中央大学経済研究所客員研究員(2019年～)。(一財)CSOネットワーク代表。
- 企業の品質、コンプライアンス、デジタルトラスト、サステナビリティ等委員会の社外委員
- 消費者庁、総務省、経済産業省等の審議会や検討会に参加。
- 主な著作物には、
「消費者志向の経営戦略」芙蓉書房出版(2010年)、
「現代の消費者主権」芙蓉書房出版(2017年)、
「企業の消費者教育の意義と責任」日本経営倫理学会(2017年)、
「『持続可能な消費』を進めるために」企業と社会フォーラム(2017年)など

今年の報告書は「シマダヤグループのバリューチェーン」「社会の変化・課題に応える商品づくり」「シマダヤグループ行動規範」という3つの重要な視点をもとに構成されているという特徴があります。それぞれにコメントいたします。

「シマダヤグループのバリューチェーン」について

企画・研究開発、調達、生産、物流、消費者という、バリューチェーンに着目し、商品の安全、そして環境に関する取り組みについてのわかりやすい説明が、消費者の安心にもつながりますし、持続可能性への取り組みに欠かせない視点であると考えます。今後、バリューチェーンの過程で見べき社会・環境課題として、昨今企業で熱心に取り組みが進みはじめているSDGs(持続可能な開発目標)やビジネスと人権に関する指導原則に照らし合わせて、貴グループで取り組むべきものを検討されることを期待します。特に貴グループでは「麺」という食品を扱っており、目標1「貧困」、目標2「飢餓」、目標12「持続可能な生産・消費」には直接関わり、特に目標12には下位目標に食品ロスの問題も掲げられており、無縁ではないと考えます。これらの目標の達成について具体的にコミットしていく必要があると思われれます。また「ビジネスと人権に関する指導原則」についても、現在、我が国の行動計画が策定中であり、企業の取り組みも問われてくると考えます。

「社会の変化・課題に応える商品づくり」について

社会は急速に変化しており、さまざまな社会課題も生まれており、「社会の変化・課題」に着目した商品づくり、特に「健康」「簡便」「個食」のニーズなどに「攻め」の姿勢で取り組まれることは社会の課題に対応した取り組みであると考えます。

さらに企業の持続可能性への取り組みを向上させるためには、食品メーカーとして今後ますます多様化する消費者のニーズへの対応はもちろん、調達、生産、物流など製造過程におけるリスクマネジメントをしっかりと行い、正確な情報を消費者に開示していく姿勢が求められます。

「シマダヤグループ行動規範」について

経営コンセプトの「おいしい笑顔をお届けします」の精神を具体的な行動に移す際の守るべき事項としてまとめられた「行動規範」は貴グループの姿勢を表すものであり、具体的事例とともに示されたのは良い取り組みと考えます。

今後、前述したように、貴グループが取り組むべき社会・環境課題を念頭に置いて「行動規範」の深化も期待します。

第三者意見を受けて



シマダヤ株式会社
専務取締役 人事総務部長
(環境管理責任者)
相馬 紳一郎

古谷様には、今年も引き続き貴重なご意見を頂き厚く御礼申し上げます。2018年度は中期経営計画第一ステージ3カ年の最終年度であり、経営計画に合わせた3年間の事業と一体化した中期環境目的を設定し取り組んで参りました。結果については、グループ工場での廃棄物削減目標は未達であったもののその他の目標は各部門・グループ工場の努力により達成出来ました。2019年度からは中期経営計画第2ステージ3カ年の期間に合わせた新たな中期環境目標方針を策定し取り組んで参ります。古谷様の本報告書に関して頂いたコメントにあります、バリューチェーンの過程で見べき社会・環境課題への取り組みや食品メーカーとしてのリスクマネジメントの更なる整備を行って参りたいと思います。特に食品ロスの問題への取り組みも重要と考えます。また、経営コンセプトの「おいしい笑顔をお届けします」のために、当社グループが取り組む社会・環境課題を把握し行動規範の深化にも努めて参ります。